

平成
5
年
度



修了報告書

沖繩県留学生

課内保管用
※配付厳禁※

表紙デザイン：比嘉 アンドレス パブロ

平成5年度沖縄県留学生沖縄県立芸術大学

はじめに

沖縄県は、我が国の南西端にあって我が国と東南アジア諸国等との接点に位置するとともに、経済・文化等の各般にわたる国際交流を深めてきた歴史と経験を有しており、このような地理的・歴史的特性を生かした国際交流の場の形成を図るために留学生を受け入れています。

留学生受入事業には海外留学生、海外移住者子弟留学生及びボリビア移住者子弟農業大学校留学生の三つがありますが、いずれも諸外国から優秀な人物を受け入れて県内の大学で修学させ、帰国後はそれぞれの国の振興開発に貢献するとともに本県との友好親善の促進等国際交流に寄与することを目的としています。

平成5年度は国立琉球大学において海外留学生9名、海外移住者子弟留学生8名、県立芸術大学において海外移住者子弟留学生4名、計21名が来県しそれぞれの大学で学びました。

留学生のみなさんが、帰国後も日本でのご貴重な体験を生かして母国の発展と日本との友好親善の増進に尽力されることを期待しております。この報告書は、留学生が一年間の日本滞在を通して感じた県民生活や日本の文化に対する率直な意見や感想をまとめたものです。この小冊子が、関係者の皆様方にとって、留学生受入事業を理解する一助となれば幸いです。

終わりに、この一年間留学生を世話していただきました国立琉球大学、県立芸術大学及び関係各位に対し、心から感謝申し上げますとともに、留学生の今後の活躍を期待しております。

平成6年3月

沖縄県総務部知事公室長 高山朝光



首里城にて（平成5年11月20日）



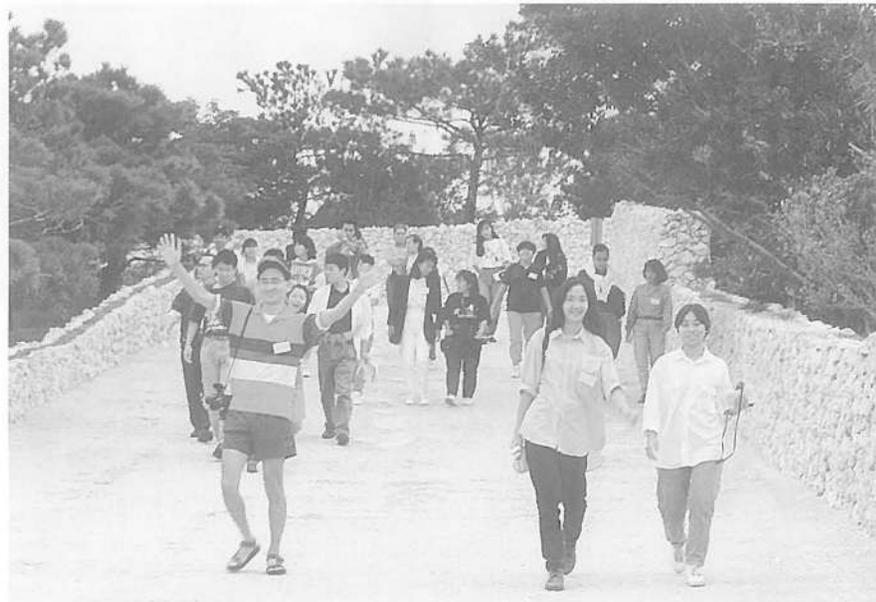
沖縄文化紹介事業 中村家にて (平成5年11月20日)



もずく料理講習会 (平成6年1月22日)



もずく料理講習会 (平成6年1月22日)



沖縄文化紹介事業 琉球の風スタジオパークにて (平成5年11月20日)

「第5回 中国元日本留学者の集い」



'93.11.12

王堂ケントン昭夫



「第5回 中国元日本留学者の集い」

'93.11.12

比嘉ベン直哉

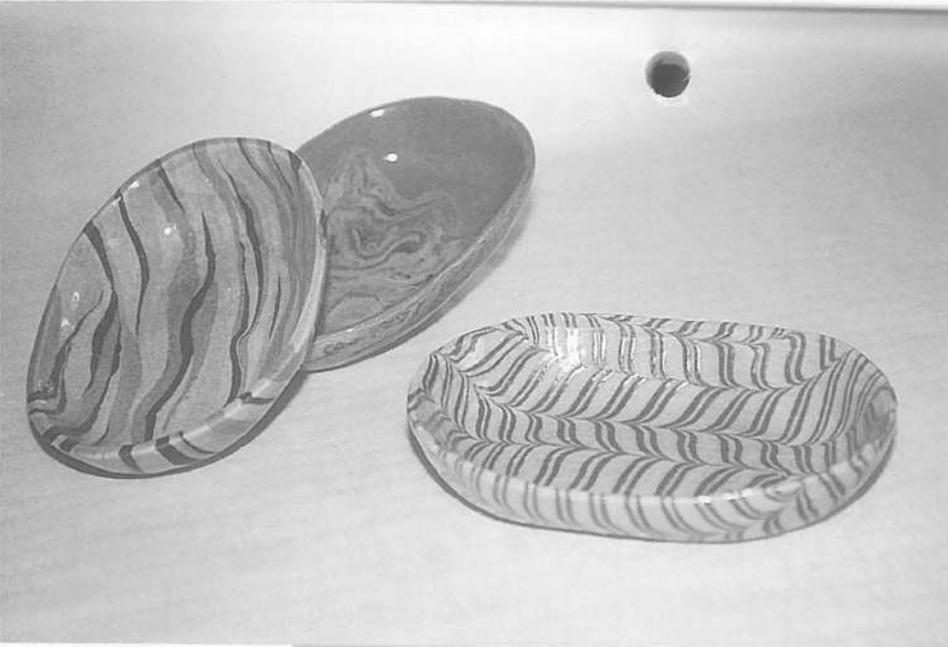


「第5回 中国元日本留学者の集い」



平成5年11月12日

「第5回中国元日本留学生の集い」にての芸大生の余興



芸大陶芸専攻(作品3点)

松田 又吉 マリサ



平成5年度海外留学生・移住者子弟留学生修了者名簿

1. 平成5年度 海外留学生 (修学先:琉球大学)

	氏 名	出 身 国	留 学 時 学 歴	受 講 学 部	現 地 住 所 (電 話 番 号)
	ゴ ズイ ウン 呉 瑞 雲 Wu, Jui-Yun	中華民国	台湾大学歴史学科 卒業	法文学部 (研究生)	
	ソウ ケン タイ 莊 建 泰 Chuang Chien-Tai	中華民国	中原大学建築工学科 卒業	工学研究所 (大学院生)	
	パク ナッヒ 朴 洛 熙 Park Nak Hee	大韓民国	仁荷大学校大学院 海洋生物学在学中	理学部 (研究生)	
	パク ソン ホ 朴 成 浩 Park Sung-ho	大韓民国	全南大学校大学院 理学部在学中	理学部 (研究生)	
	فايزه هانيم ابد الغاني Fairuz Hanim Abd. Ghani	マレーシア	Mara Institute of Technology 観光科 卒業	教養部 (聴講生)	

	氏 名	出 身 国	留 学 時 学 歴	受 講 学 部	現 地 住 所 (電 話 番 号)
	ホウ ユエ メイ 夏 月 梅 Ho Yueh Mei	シンガポール	大学日本研究学科 シンガポール国立 卒業	教養部 (聴講生)	
	デディ ヤンティ Dedi Yanti	インドネシア	インドネシア大学 文学部日本学科 在学中	教養部 (聴講生)	
	クワンズダ ルヂワンニク Kwansuda Rujivanichkul	タ イ	チュラロンコン 大学文学部日本語 学科卒業	法文学部 教養部 (聴講生)	
	レネット レガスピ トレス Lynette Legaspi Torres	フィリピン	フィリピン大学 大学院在学中 (日本研究)	教養部 (研究生)	

	氏 名	出 身 国	留 学 時 学 歴	受 講 学 部	現 地 住 所 (電 話 番 号)
	佐辺 亜沙美 (47) Miriam Assami Sanabe	ブラジル	サンパウロ経済大学 卒業	法文学部 (研究生)	
	ヌニエス 仲村 イルマ Irma Núñez Nakamura	メキシコ	Instituto Politecnico Nacional工学部卒業	教養部 (聴講生)	
	大城 新川 パトリシア Patricia Oshiro Arakawa	ペルー	カズマツノ カレッジ 専門学校卒業	教育学部 教養部 (聴講生)	

平成5年度 海外移住者子弟留学生 (修学先: 県立芸術大学)

	氏 名	出身国	留学時学歴	受講学部	現地住所 (電話番号)
	松田 又吉 マリサ Marisa Matsuda Matayoshi	ペルー	Pontificia Universidad Catolica del Peru	美術工芸学部 (聴講生)	
	比嘉 ベン 直哉 Ben Naoya Higa	アメリカ	Sunny Hill High School卒業	音楽学部 (聴講生)	
	王堂 ケントン 昭夫 Kenton Akio Odo	アメリカ (ハワイ)	ハワイ大学建築科卒業	音楽学部 (聴講生)	
	比嘉 アンドレス パブロ Andres Pablo Higa	アルゼンチン	フェイス大学 グラフィックデザイン科卒業	美術工芸学部 (聴講生)	

2. 平成5年度 移住者子弟留学生 (修学先:琉球大学)

	氏 名	出 身 国	留 学 時 学 歴	受 講 学 部	現 地 住 所 (電 話 番 号)
	奥 間 エミリ Emiri Okuma	カナダ	バンクーバー コミュニティー 職業専門学校卒業	教養部 (聴講生)	
	嘉陽 宗之 Muneyuki Kayo	カナダ	ブリティッシュ コロンビア 州立大学在学中	教養部 (聴講生)	
	大城 天久 美香 Mika Oshiro Ameku	ボリビア	ガブリエル・レネ モレノ高等学校卒業	教養部 (聴講生)	
	仲宗根クラウディオ エルネスト Claudio Ernesto Nakasone	アルゼンチン	UNIVERSIDAD TECNOLÓGICA NACIONAL コンピューターエンジニア卒業	教養部 (聴講生)	
	阿波根 ミリヤン 良枝 Miriam Yoshie Ahagon	ブラジル	サンパウロ州立大学 文学部日本語学科	教育学部 (研究生)	

報 告 内 容 (海外留学生)

1 異文化との共存ー沖縄からの学び	呉 瑞 雲	1
2 美海紀行 -- 沖縄との触れ合い	荘 建 泰	6
3 もう おわったの	朴 洛 熙	10
4 沖縄での一年	朴 成 浩	13
5 私のけいけんの話	ファイルズ ハニム アブドゥ ガニ	16
6 尽信書不如無書	夏 月 梅	21
7 私の初めての留学	デディ ヤンティ	24
8 沖縄の青い空	クワスンダー ルチワニクン	31
9 沖縄のオレンジ色の空の下で私は目が覚める	レネット レガスピ トーレス	36

報告内容(海外移住者子弟留学生・琉球大学)

- | | | |
|----------------|------------------|----|
| 1 一度きりのチャンス | 奥間 エミリ | 39 |
| 2 忘れられない一年間 | 嘉陽 宗之 | 44 |
| 3 県費留学生として | 大城 美香 | 48 |
| 4 私が見た沖縄 | 仲宗根 クラウディオ エルネスト | 52 |
| 5 「鷺の鳥」 | 阿波根 ミリアン 良枝 | 57 |
| 6 思い出に残る1993年 | 佐辺 亜佐美 ミリアン | 61 |
| 7 沖縄での私の生活 | ヌニエス 仲村 イルマ | 65 |
| 8 沖縄、いつまでも心の中に | 大城 アラカワ パトリシア | 70 |

報 告 内 容
(海外移住者子弟留学生・沖縄県立芸術大学)

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1 一年間の思いで | 松田 マリサ …………… 74 |
| 2 一年を終えて…… | 比嘉 ベン 直哉 …………… 79 |
| 3 三味線は私の宝物です | 王堂 ケントン 昭夫 …………… 82 |
| 4 琉球風 | 比嘉 アンドレス パブロ …………… 85 |

異文化との共存—沖繩からの学び

台湾 吳 瑞雲

とても辛いなことは、沖繩での留学生活も
もう一年間延長できるようになった。自分に
とっては、いろいろな勉強になった。一年だ、
たというべきである。

最初、沖繩に対するイメージは国際的な雰
囲気が満ちている中に、自分の独自の文化を
持ちながら、生きていくところにとどまらな
い。

そして、私にとっては、沖繩に対するこの感
じは、むしろほかの外国とあまり変わらな
く、一時ただのフレッシュな異国感覚だ、た
と言えるかもしれない。しかし、も、と沖繩
の歴史を理解するようになる。この感覚は
やはり変化してきて言えないほど複雑にな
った。

というのは、琉球王国時代から、ヤマト世
に変わって、次にアメリカ世に、またヤマト
世になっ、ているこの沖繩の歴史は、何となく

台湾と似ている気がするからだ。そしてこの歴史は沖縄にチャンポン文化という特色を出してゐるかもしれないが、同時に、世代交替によつて新しく入つて来た異文化との衝突、多協、そして共存に至るまでの模索過程をももたらしたと言えるだろう。同じような歴史経験は台湾にもある。

つまり、台湾は十六世紀にオランダ、スペインの統治時代があと、次に明朝、清朝、日本時代があと、戦後以来中国から渡つて

きた国民党政府の統治時代に入つてゐるのである。このような世代交替が台湾の文化内容を豊かにさせたことはいまでもなく、だが同時に、今の台湾におけるエスニックグループの対立という事実を作り上げたのもある。大雑把に言うと、今の台湾ではいわゆる先住民民族へ昔から台湾に住んで来た馬来系民族へ本省人へ四百年頃に中国の福建廣東から移住して来た漢民族へ、外省人へ戦後に国民党政府と一緒に中国から渡つて来た人々へ、とい

う三つのエスニ「クグループがあつて、それ
ぞれの言葉・生活経験・風俗習慣等が違つて
いる。北京語という共通語があつても、相手
に対する違和感が強くて、様々な誤解を生み
出しやすい。これはやはりそれぞれのグルー
プが自分の文化に対するアイデンティティ不
足及び相手の文化に対する認識不足とかかわ
つて、そして異文化の相手のことも受け入れ
ることができない、と言えるだろう。
そして、沖縄はこんなところについて私を
もつと反省させ、考え直させたのである。
まず、異文化に対する受け入れについての
深刻な感じは次のような経験があつた。
その一、与論島の旅でビーチで商売してい
るおばさんと話したことがある。そのおばさ
んは外国人の私を驚かせたほどの「標準語」
を使つて私との話が通じられたのである。と
いうのは普通おばさんたちはたいい方言の
イントネーションで喋るのである。「おばさ
ん、こんなうまい標準語をどこで学んだの

と聞いたら、「本土から観光に来た学生さん達と話して少しずつ覚えてきたのです」と。その二、石垣行きの船で一人旅をしているおばさんが再び私を驚かせた。彼女の流暢な英語は、大学まで英語をやった来た私には勉強不足だったな一歩という感じをっよくさせたのである。学歴の低い彼女もやはり自分の力でどこかで勉強して使えるようになっていたのである。

また、沖縄における自分の歴史・文化などの研究情熱及び努力も私を感心させた。学界は無論、民間レベルの研究も感んでいて様々な分野に「いま力を尽くしている。村、町でもいろいろな方言勉強会、郷土歴史読書会など行なわれているようである。台湾では、いろいろな原因によって、方言や郷土の歴史など無視されてきて、やはり最近自分の歴史や文化などに対して関心を持つようになってきているけど、まだまだこれからだと言うべきである。

こんなふうに自己文化の認識から出発して、異文化とのインターアクションによって、異文化を受け入れて共存できるような努力は、やはり本当の文化交流に達成するには不可欠だと思われる。

異文化との共存ができるのはやはり自分の文化に対するアイデンティティを持ちながら、自己文化を相対化させるのにほかならない、と沖縄から、私は学んだのである。

短い二年間だが、沖縄県民の税金を使って勉強することができるとは、私は、ただ沖縄と台湾との間の文化交流について、できる範囲で力を尽くしていきたい。そして、異文化を受け入れるように努力して生きていく平凡なおばさんたちへ或いは沖縄で私が出会った様々な人々の姿を、私は忘れられないことがきくとできないだろう。

美海紀行

沖繩との触れ合い

中華民國台灣 莊建泰

美しい海に囲まれた沖繩との触れ合いを一言で言うと、NHKの大河ドラマ「琉球の風」で使われた言葉「美海紀行」が、最もふさわしいのではないでしょうか。私は沖繩に来て二年目ですが、いつも青い海、白い砂に感動させられます。たまにビーチへ遊びに行きますが、ビーチに着いたら、海の魅力に負けて、さっそく海に飛び込んでしまうようになりました。白い砂で、しかも世界中で最も多い種類の珊瑚礁が生息している海に入ると、多彩な熱帯魚が目の前に自由自在に泳いでいるのです。魚の美しい姿は何度見ても飽きません。また、きれいな海でとれる魚は味の方も最高です。沖縄の県魚グルクンは空揚げはもち

ろん、肉をつぶしてよく練ってつくったカマボコが私は大好きです。特に、石垣のカマボコの味は忘れられません。しかし、沖縄料理は、実はまだまだあります。チャンポン料理の豆腐チャンプル、ゴーヤチャンプルを始め手打ちの糸沖縄そばなどは美味しさいっぱいです。中でも、素朴な味をしている手打ちそばと手作り豆腐は大好物です。沖縄の食文化もすばらしいのですが、沖縄文化の中で最も特色があるものの一つのは芸術品の細工です。

沖縄の文化は三味線を始め、音楽、踊り、空手などで、どれもすばらしいと感じます。

芸術品とも言える芭蕉布、多彩な紅型、華やかな数多くの漆器などはよく知られています。私は螺鈿細工のすばらしさに感動させられました。螺鈿細工は貝の殻を薄く磨いて図様に合わせるまで、一つ一つ丁寧に仕上げをしてできあがるのです。できた作品は貝殻の特殊な光沢をしているので、つやつや輝いて不思議な感じがします。作品のすばらしさ

はもちろんのこと、職人たちの作品に対する情熱、思い入れにも感動させられます。このようなことからモウチナンチュウのすばらしさが、感じられます。

沖縄の祭はなんといっても那覇祭で、とりわけ大綱引きは深い意味が存在しているそうです。輸入した何トンもある稲藁で作った大綱を道の真ん中に置いて、大綱の中心から東西に分けて試合をするということなのです。稲藁はよく台湾から輸入するので、台湾と沖縄の

国際交流も大綱のように強く結びたいと思っ
ていきます。ものすごい大きなしかも何トンもある大綱ですから、そんなに簡単に動かすことはできません。何千人の力を合わせてようやく動かせるようになります。それは沖縄の人々の心を強くつなぐ役目を果たしているの
でしょう。そして、忘れることができないのは、シーミー祭です。祖先の手柄を讃え、さらに次の世代を育てようとする気持ちをもって、祖先のお墓の前に家族揃って、ご馳走を

たべたり、歌を歌ったり、踊ったりするので
す。祖先を尊敬して、子孫を育てることは人
間として最も大事なことだと思っています。
台湾にもお墓参りの清明節という節句があり
ます。どちらも祖先を大切にするという美し
い心をもった民族同士なので、さつと、強い
心のつながりが結べると信じています。

最後に、いろいろとお世話になりました沖
縄県をはじめ、国際交流財団の皆さんに心か
ら感謝致します。特に、ひろみさん、いろい

ろ親切にしていたいただき、ありがとうございま
した。そして、ひろみさんの赤ちゃん幸せ
もお祈りいたします。留学生の皆さん、いつ
までもお元気です。

一月

森田研究室で

もう おわったの

朴 治熙

(大韓民国)

昨年四月八日午前十一時二五分。初めて沖繩という島に会った。ソウルから約二時間。日本に来るのは二回目でしたけど前には感じられなかった、一言では言い表せないような気分になったんです。一年間の留学生活がよく出来るかどうかも自信がなかったし、何か不安感を感じました。でも、飛行機の窓のむこうに広がっている美しいエメラルド色の海を見ながら、不安と心配はたんだんなくなりました。「こんなに美しい島で暮らせるのは素晴らしいじゃないか。やっぱり私は幸運児だ。」と思いました。飛行機から足を出した瞬間の初めての一言は「アツイ。」でした。まだ四月なのにこんなにあついのか。空から見た美しさがこんな事かと思いました。私は実にナツバテだったんです。とにかく、私の沖

縄での留学生活は始まりました。私は琉球
大学校の千原寮の南星C棟五二二号室で暮ら
す事になりました。神様のいたずらだったの
か私の部屋は千原寮で「恐怖の炎熱温室」と
いわれてるほどのアツサで有名な部屋でした
。本当に夏の日々は大変でした。本格的な学
校生活は五月からでした。私の場合は研究生
ですから日本語の授業を受ける義務はなかっ
たんですけど、日本語がもっとうまくなりた
かったので授業を受けました。授業も楽しか
つたけど、世界の色々な国からの留学生たち
と友達になったのが嬉しかったです。皆優
しくて偉い学生でした。勿論地元の友達もた
くさん出来ました。私が困った時、がっかり
した時、寂しい時、彼らは自分の事のように
手伝ってくれたり、元気を出させてくれまし
た。皆が力になってくれました。本当にあり
がとうね。地元の人々からも暖かい人間味を
感じました。時々出来れば琉球の文化と風習
を体験しようと思っ、首里城とか県立博物館

などの見学もしました。昔の韓国と琉球の文化や生活習慣が似ている事に驚きました。昔から両国間には活発な交流があったと聞きました。今からも、もっとたくさん交流があつてほしいです。この一年間、本当に様々な事がありました。その中には生まれて初めて新聞やテレビ放送に我々の事が話題になった事や一人暮らしを体験した事、皆一緒に研修旅行をした事などがありました。写真の撮影が大好きな私は綺麗な沖縄の姿をたくさん撮りました。ある日、写真を見ながら思い出に耽るはずです。「会うは別れの始め、もうおわたのか。」私にとってこの一年は一生忘れられない年になると思います。私にこんな素晴らしい機会を与えてくれた皆さんに感謝したいです。最後に皆さんに頼みたい事は沖縄の美しい自然と豊かな人情を大切にしてほしいです。いつか必ず再び訪ねたいと思っています。皆さん、元気に、ごきげんよう。

平成六年



沖縄での一年

大韓民国 朴 成浩

1993年4月8日、私は韓国から沖縄県の留学生として沖縄にきました。沖縄は二回めで、きもちは安心しました。一回めは私のまえに県の留学生としてせんはいが琉球大学にいたときに2月中旬ごろきてかんたんに県の国際交流財団のひろみさんと指導先生にあいさつとどんな研究するか、いろいろなそうだんのためになりました。

外国は今度がニばんめが、長期間の外国生活ははじめですからいろいろなことが心配でした。那覇空港でもたたくかえてくれた沖縄県国際交流財団の方々の顔とブさんにはんとうにありがとうございました。那覇から本部まで車で約3時間かけて本部の開発マニションに来てほんとの留学生活が始まりました。

研究所は瀬底にある琉球大学の熱帯海洋科学センターの高野研究室で、私は研究生として自分のせんもんせんもんの海洋生物について研究を始めました。魚類の生理生態について研究を始めました。研究所の高野先生、竹村先生、サンゴ礁研究室の先生たちと日本のいろいろな大学で研究けんきゅうのために来る学生たちは私をあたたくかえてくれました。いろいろなことを親切に教えてくれました。最初、私は日本語の話しかできなかつたのでとても不便でした。その時、

先生と学生たちが私のためにもういちどせつめいし、いろいろなことをしんせつに教えてくれました。たからますます自信を持つて少しづつ話すことができますけれども、文法などがまちがひことがまだありました。私の研究材料が沖縄の魚でいるグルクンです。かく観察のためには海のなかで見るときにいろいろなサンゴ礁があるエメラルドの色で海がほんとうにすばらしいところでした。一年間研究するになつたことがうれしかったです。

私が沖縄に来ていておぼろげな
 うは親切だと責任意識のつよさをかんじしま
 した。みじかい留学生活をして日本の中の沖
 縄の文化はおかれませんけれども、ホストファミリーのキブさんといっしょうに金^銭タウンのま
 つりさんかが印象にのこりました。

沖縄で一年の研究するきっかけを私にくれた
 沖縄県に深い感謝を申し上げます。財団のみ
 なさん、ほんとうにありがとうございました

さよなら